

「信仰年」と私たち (VI)

主任司祭 吉池 好高

「信仰年」の精神に沿って、私たちの信仰を振り返るということは、何よりも、私たちのカトリック信者としての信仰が、私たちにとって「恵み」であるということ、あらためてじっくりと味わうということです。私たちのカトリック信者としての信仰は、どのような恵みを私たちにもたらしているのでしょうか。私たちはカトリック信者となることによって、「神」を信じる者たちとなったのです。私たちが信じている神は、「天地の創造主、全能の父」である神です。私たちはカトリック信者となることによって、私たちが生きるこの世界と、その中に生きる私たち全ての者のいのちは、「天地の創造主、全能の父」である神のもとにあることを知り、そのような神を信じて生きる者たちとなったのです。このような信仰は、私たちが自分の人生経験の中から、自分一人で考え出した「悟り」や「信念」なのではありません。私たちは、教会に今も生きて伝えられている聖書を通して、このような神を知り、このような神を信じる者たちとなったのです。私たちが洗礼によって迎え入れられた教会の集いの中で、聖書を通してご自分を示し、語りかけておられる神と出会っているのです。そのようにして私たちが出会った神は、私たち全ての者の創造主、全能の父であると同時に、ナザレのイエスと呼ばれた一人の人となって、人の世の評価にさらされ、十字架にかけられて死んで行かれた神です。私たちが信じる神は、人の世のむごさに身を投じることによって、人の世のむごさを私たちに示し、私たちが生きる人の世は神と無縁ではないことを、その復活によって示してくださるのです。私たちが信じる神は、十字架の上から私たちを招く復活の主である神です。私たちがミサの中で聴くイエスのみことばのすべては、十字架の上から私たちに語りかける復活の主である神のみことばです。そのみことばを頼りに、そのみことばに従ってこの世の私たちの人生を生き抜くことこそが、神のいのちの世界への出口であり、入口であることを、私たちは、私たちが受け入れたカトリックの信者としての信仰によって知ったのです。私たちの信仰は福音なのです。